

「原発文庫」 いつまでも、何冊でも貸し出します

～ホームページにも開店することになりました～

「原発文庫」開店の理由

東京電力福島第一原子力発電所の事故から8年が過ぎました。事故当初は、本屋さんの店頭にはたくさんの原発事故関連や放射線の本が平積みされていました。それらの本がしだいに消え、今は代わって嫌韓本や日本礼賛の本が並んでいます。

文部科学省から昨年9月発行された再改訂版の「中学生・高校生のための放射線副読本」※1や復興庁が作成し、PTA集会や福島県内外のイベントなどで配布されているという「放射線のホント」※2を開いたとき、私たちは驚き、怒りが湧いてきました。福島第一原発の事故を矮小化し、今後何十年と続くだろう事故の収束への困難さには触れていません。原発の「安全神話」が復活したかのようです。

福島原発の過酷な事故を忘れず、今の生活に生かして欲しい。特に次代を担う若い人たちに原発のリスクや放射線の影響にもっと関心を持って欲しい。そうあるために学校教育のなかで取り組んで欲しい。そんな願いをこめて、原発や放射線のことを学ぶ一助になればと文庫を開いています。



例えば「副読本」調べたい・・・

上記※1に関連して、「放射線と被ばくの問題を考えるための副読本」*（福島大学放射線副読本研究会）や雑誌「科学」（2019. 6月）の記事「紙面が“除染”された『放射線副読本』—削除された『汚染』『子どもの被ばく感受性』『LNTモデル』と読み比べてみてください。また、福島第一原発事故直後に出版された「知ることから始めよう放射線のいろいろ 中学生のための放射線副読本」*（平成23年10月 文部科学省）や「知っておきたい放射線のこと 高校生のための放射線副読本」*（平成23年10月 文部科学省）も合わせてみてください。

同じく上記※2なら、「『放射線のホント』と『放射線副読本』」*（原子力資料情報室）も参考に読んでみてください



い。全部原発文庫資料にあります。

（なお、上記の資料のうち*印のものはネットからダウンロードできます）

どんな本や資料があるか？

2018年3月11日「さよなら原発集会」（高崎市）へ出店したとき、28冊でスタートした文庫の蔵書は、現在200冊を超えました。部会の性質上、原発、放射能関連の中の科学、社会科学に分類される本や資料が多いです。それ以外の本で書店や図書館に置いてないだろうと思われる本や資料を一部紹介します。

○「手紙 お母さんへ」（自費出版）

浪江町から静岡県へ避難している塾を経営していたご夫妻と元塾生が描いた絵本です。

○「福島から伝えたいこと」

第1集（2012）第2集（2013）第3集（2015）
（福島県立高等学校教職員組合女性部）

原発事故直後の体験を教職員、高校生が書いています。サテライト校など当時の学校の様子がわかります。

漫画もあります

○「福島原発の闇 原発下
請け労働者の現実」
(堀江邦夫 - 文 水木しげ
る - 絵)

○「まんが 原発列島」
(柴野徹夫 - 作 向中野義
雄 - 画)



貸出ルール

- ・期限なし何冊でもOK
- ・本に添付の貸出カードに借りる日付、名前、連絡先を書く。
- *じっくり勉強したいから、授業づくりに使いたいから、一度に何十冊1年間借りるというの也有りです。
- *資料については相談して下さい。

どんなときに借りられるか？

a 出店したとき

「さよなら原発集会」(毎年3/11前後、高崎市役所前広場)、「伊勢崎放射能について学ぶ会」(年に2回くらい、伊勢崎緋の郷)に出店しています。要請があれば、可能な限り出店します。

原発文庫の一冊 原発文庫登録番号145

「レントゲン、CT検査 医療被ばくのリスク」(高木学校編著、ちくま文庫)

日本は世界の中でも医療被ばくが群を抜いているという。確かに、健康維持のために毎年集団検診で0.07mSv(ミリシーベルト)の胸部X線撮影を受け、虫歯になった奥歯の治療のために0.02mSvのX線写真を当然のこととして撮影してもらってきたわけだが・・・このことも驚いたのだが、実



は私にとってもっとショックだったのは、X線が原発で出るα、β、γ線と同じ電離放射線であることは百も承知であったが、X線は診療放射線であるから「平気」だという自分に気づいてしまったことである。高校で教えている生徒たちの中には看護師を目指したり、原発の作業現場に関わるかもしれない生徒たちもいる。私は授業の中で医療被ばくも原発関連での被ばくも同様だということをきちんと伝えてきただろうか。忸怩たる思いである。

《文責：坂田尚之》

b ホームページから

スマホでも見られます。「ぐんま教育文化フォーラム」で検索を！(下のQRコードからもすぐ見られます) 年内にホームページの原発部会ページに「原発文庫」のブックリストを掲載する予定です。電話・FAXやメールで注文を受けます(番号、アドレスは本誌裏表紙にあります)。受け取り方法はぐんま教育文化フォーラム(教育会館)へ取りに来てもらうか、郵送料借り手負担で送付します。

c 直接お寄り下さい

「ぐんま教育文化フォーラム」(教育会館)に見に来て借りる。ただし前もって電話をしてください。いないことがしばしばあります。

その他

- ・こんな本を見つけているということがあれば私たちの力量の範囲でお手伝いします。
- ・原発・放射能関連の本や資料の寄贈をお願いします。

《文責：田村ゆう子》

